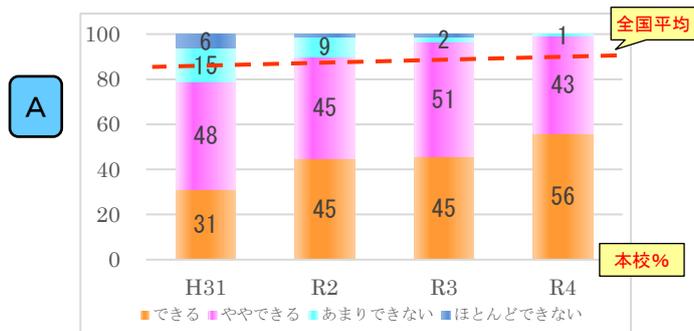


Affairs 013-1

ねらい：教員のICT活用指導力の向上 教員のICT活用指導力チェック（文部科学省）

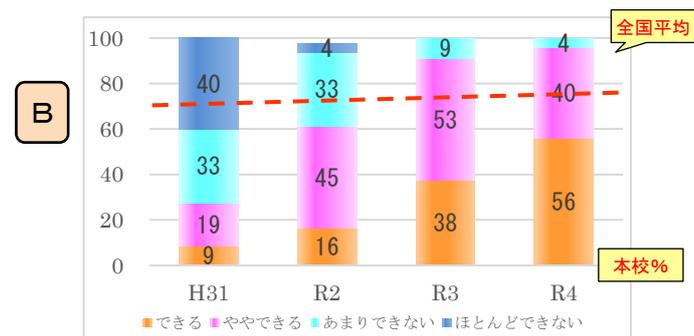
ICTを効果的に授業で活用することによる「わかる授業」の実現のためには、ICT環境の整備はもとより、その環境を活用する教員のICT活用指導力の向上が必要不可欠である。

富士見丘小学校の教員の回答状況			R1	R2	R3	R4	
A 教材研究・指導の準備・評価・校務 などにICTを活用する能力	A-1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	できる	25%	35%	45%	56%
			ややできる	40%	55%	50%	44%
			あまりできない	20%	10%	5%	0%
			ほとんどできない	15%	0%	0%	0%
	A-2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	できる	40%	50%	59%	68%
			ややできる	50%	45%	41%	32%
			あまりできない	10%	5%	0%	0%
			ほとんどできない	0%	0%	0%	0%
	A-3	授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	できる	30%	50%	55%	60%
			ややできる	50%	40%	45%	40%
			あまりできない	15%	10%	0%	0%
			ほとんどできない	5%	0%	0%	0%
	A-4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	できる	30%	45%	23%	40%
			ややできる	50%	40%	68%	56%
			あまりできない	15%	10%	5%	4%
			ほとんどできない	5%	5%	5%	0%



他の項目を見ると、令和2年度以前までは授業等でのICT活用状況が不十分であるといえるが、教員の情報活用能力そのものは低いことは分かる。
このことは、全国的にも同様の傾向であり2年度までは、授業等でICTを活用して、効果的な指導をすることが課題であった。

富士見丘小学校の教員の回答状況			R1	R2	R3	R4	
B 授業にICTを活用して指導する能力	B-1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	できる	10%	35%	45%	60%
			ややできる	25%	60%	55%	40%
			あまりできない	40%	5%	0%	0%
			ほとんどできない	25%	0%	0%	0%
	B-2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	できる	10%	21%	41%	60%
			ややできる	25%	42%	55%	36%
			あまりできない	40%	37%	5%	4%
			ほとんどできない	25%	0%	0%	0%
	B-3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	できる	10%	10%	36%	52%
			ややできる	15%	40%	45%	44%
			あまりできない	25%	45%	18%	4%
			ほとんどできない	50%	5%	0%	0%
	B-4	グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	できる	5%	0%	27%	52%
			ややできる	10%	42%	59%	40%
			あまりできない	25%	47%	14%	8%
			ほとんどできない	60%	11%	0%	0%



令和2年度までは、授業等にICTを活用することが不十分であった。とりわけ、ICTを活用して児童の主体的で対話的な深い学びに資する指導がほとんど行われていなかった。
その後、全体的に大きく向上しているが、「できる」と回答している割合は5～6割に留まっており、更なる努力が必要である。

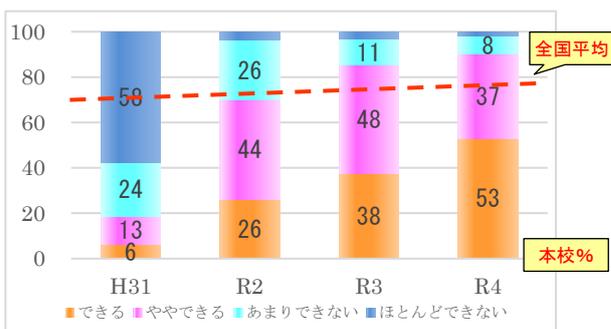
Affairs 013-2

総合

教員の情報活用能力を問うものであるが、回答状況からは実際の活用状況が見えてくる。令和2年度まで、A「校務等への活用」以外は全国平均を大きく下回っており、ICTを活用した指導が不十分であったことが分かる。2年度にICT環境を整備するとともに、指導の充実を図ったことで、教員の指導力が大きく向上している。また、3年度に1人1台のタブレットを導入し、GIGAスクール構想を推進したことで、さらに一層の向上がみられる。4年度は、顕著な変化は見られない。

富士見丘小学校の教員の回答状況		R1	R2	R3	R4	
C 児童生徒のICT活用を指導する能力	C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル操作など)を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	できる	10%	40%	55%	68%
		ややできる	25%	55%	45%	32%
		あまりできない	25%	5%	0%	0%
		ほとんどできない	40%	0%	0%	0%
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	できる	5%	40%	50%	52%	
	ややできる	15%	50%	45%	36%	
	あまりできない	35%	10%	5%	12%	
	ほとんどできない	45%	0%	0%	0%	
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	できる	5%	11%	14%	40%	
	ややできる	10%	26%	50%	44%	
	あまりできない	20%	30%	27%	12%	
	ほとんどできない	65%	33%	9%	4%	
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	できる	5%	10%	32%	52%	
	ややできる	0%	35%	50%	36%	
	あまりできない	15%	50%	14%	8%	
	ほとんどできない	80%	5%	5%	4%	

C

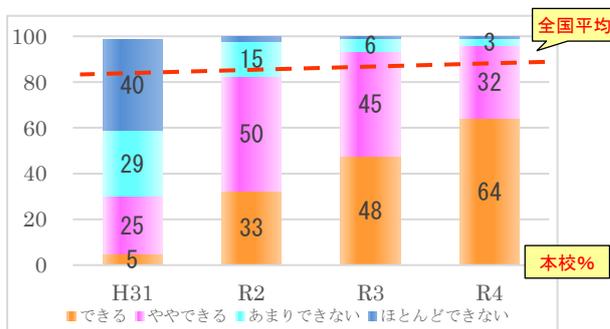


全国的に児童の情報活用能力の育成のための指導の充実が課題であるが、本校においても満足できる状況とは言えない。

授業の中で、各教科のねらいを達成したり深めたりするなかで、6年間の指導目標を明確にして、計画的に児童の情報活用能力を育成する必要がある。

富士見丘小学校の教員の回答状況		R1	R2	R3	R4	
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、他者の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	できる	5%	32%	50%	68%
		ややできる	25%	53%	50%	32%
		あまりできない	20%	16%	0%	0%
		ほとんどできない	50%	0%	0%	0%
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違反な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用できたりできるように指導する。	できる	5%	35%	41%	60%	
	ややできる	25%	50%	50%	32%	
	あまりできない	50%	10%	5%	4%	
	ほとんどできない	20%	5%	5%	4%	
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	できる	5%	29%	68%	64%	
	ややできる	30%	48%	27%	32%	
	あまりできない	20%	24%	5%	4%	
	ほとんどできない	45%	0%	0%	0%	
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	できる	5%	35%	32%	64%	
	ややできる	21%	50%	55%	32%	
	あまりできない	26%	10%	14%	4%	
	ほとんどできない	47%	5%	0%	0%	

D



1人1台のタブレットが導入されたこともあり、情報モラルなど、児童が情報社会に参画できる知識や態度を育成することが喫緊の課題である。

あらゆる教育活動を通して指導することが大切であり、すべての教員が「できる」段階まで高める必要がある。